



2018年5月15日

各位

会社名 川澄化学工業株式会社  
代表者名 代表取締役社長 昌谷 良雄  
(コード番号 7703 東証第二部)  
問合せ先 経営企画室 室長 齊野 猛司  
(TEL 03-5769-3244)

## 中期経営計画の策定および構造改革の実施に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、中期経営計画を策定するとともに企業価値向上に向けた収益力の強化と体質改善を目的として、構造改革の実施を決定いたしましたのでお知らせします。詳細につきましては、本日付公表の「中期経営計画と長期目標」をご確認ください。

### 記

#### 1. 構造改革実施の背景について

当社を取り巻く既存事業の事業環境は、透析事業をはじめとする一部製品において、薬価の下落や国内外での競争激化により、将来的な収益の確保が困難となってきております。

このような状況下、当社は2016年4月より、「事業構造転換」と「内部構造転換」を軸とした中期経営戦略を定め、競争力の源である技術力・開発力を磨き、特定の分野において特長をもった製品を創り出す開発型企业となるべく、土台作りを進めて参りました。その結果、研究開発テーマも予定通り進捗し、新製品が売上に貢献出来るかたちが見えてきました。

このような状況から、財務基盤の健全性が確保できている今、収益の見込めない既存事業へ振り向ける経営資源を絞り、今後収益と成長が見込める分野に経営資源を振り向けていく、選択と集中の事業構造改革が必要であると判断し、今回の構造改革の実施を決定し、新たな中期経営計画を策定いたしました。これにより、当社は研究開発型企业への転換を図って参ります。

#### 2. 構造改革の概要

当社は、以下の重点施策により事業構造、内部構造の改革を実施し、研究開発力強化のために経営資源を振り向け、収益のV字回復実現と企業価値向上を目指してまいります。

##### (1) 体外循環事業の見直し

###### ① 不採算事業からの撤退

- ・ 今後収益の改善が見込めない国内生産ダイアライザーの生産・販売、および血液浄化製品の自社国内販売から撤退します。
- ・ 上記撤退にともない、国内外の生産組織を見直し、配置転換等を含み国内で60名、海外で160名規模の人員の適正化を実施し、2020年3月期までに生産拠点を再編します。

## ② 営業拠点の統廃合

- ・ 国内営業拠点を東京・大阪・福岡の 3 拠点に集約し、配置転換等を含む 40 名規模の人員適正化を実施し、2019 年 3 月期に拠点を整理・統合します。また、同期末にて海外販売子会社である、ナムシントレーディング社の事業終了を予定しております。

## (2) 血管内分野の拡大と新分野への進出

### ① 新製品による新たな収益基盤の確立

- ・ 成長領域である血管内分野、そして新たな領域である消化器分野、癒着防止材の研究開発に資源を投入し、より付加価値の高い事業の基盤を確立します。
- ・ 2021 年 3 月期に新研究開発拠点(神奈川県キングスカイフロント)を設置し、医療現場との距離を縮めるとともに、国内外の営業・製造拠点とのネットワークを強化します。

### ② グローバル展開の加速

- ・ 海外において新製品をタイムリーに上市するため、体制を強化します。
- ・ スtentグラフトの欧州での販売を拡大します。また、米国にて上市している製品の販売も拡大します。

## (3) 生産性の向上

### ① 業務の効率化

- ・ 生産管理センターを設置し、国内外の生産を一元管理することによって管理人員の削減および業務の効率化を図ります。
- ・ RPA(ロボットによる業務の自動化)を活用し、生産性向上を図ります。
- ・ 本社等人員においては、2019 年 3 月期に配置転換等を含む 30 名規模の人員適正化により、効率的なオペレーションを実施します。

### ② 働き方改革

- ・ 従業員がもっと柔軟に働き、ワークライフバランスがとれるよう人事制度設計を改定します。
- ・ 果敢に挑戦出来る次期リーダーの育成と、活き活きと働ける人事・処遇制度の改革をおこないます。

以上の人員適正化へ向けた施策として、国内外で募集人員を 290 名程度とする希望退職の募集を実施いたします。募集期間、退職日などの詳細条件等は正式に決定次第、別途お知らせいたします。

なお、構造改革に関わる費用は以下の通りです。

一時費用            15 億円 (2019 年 3 月期)、1 億円(2020 年 3 月期)

### 3. 撤退事業の経営成績

	撤退事業 (a)	2018 年 3 月期 連結実績 (b)	比率 (a/b)
連結売上高	3,619 百万円	25,437 百万円	14.2%

### 4. 今後の見通し

今回の構造改革の実施にともなう一時費用は 2019 年 3 月期中に 15 億円、2020 年 3 月期中に 1 億円と見込まれ、これによる業績への影響は、本日発表の「平成 31 年 3 月期連結業績予想」に反映しております。

以上

# 中期経営計画と 長期目標

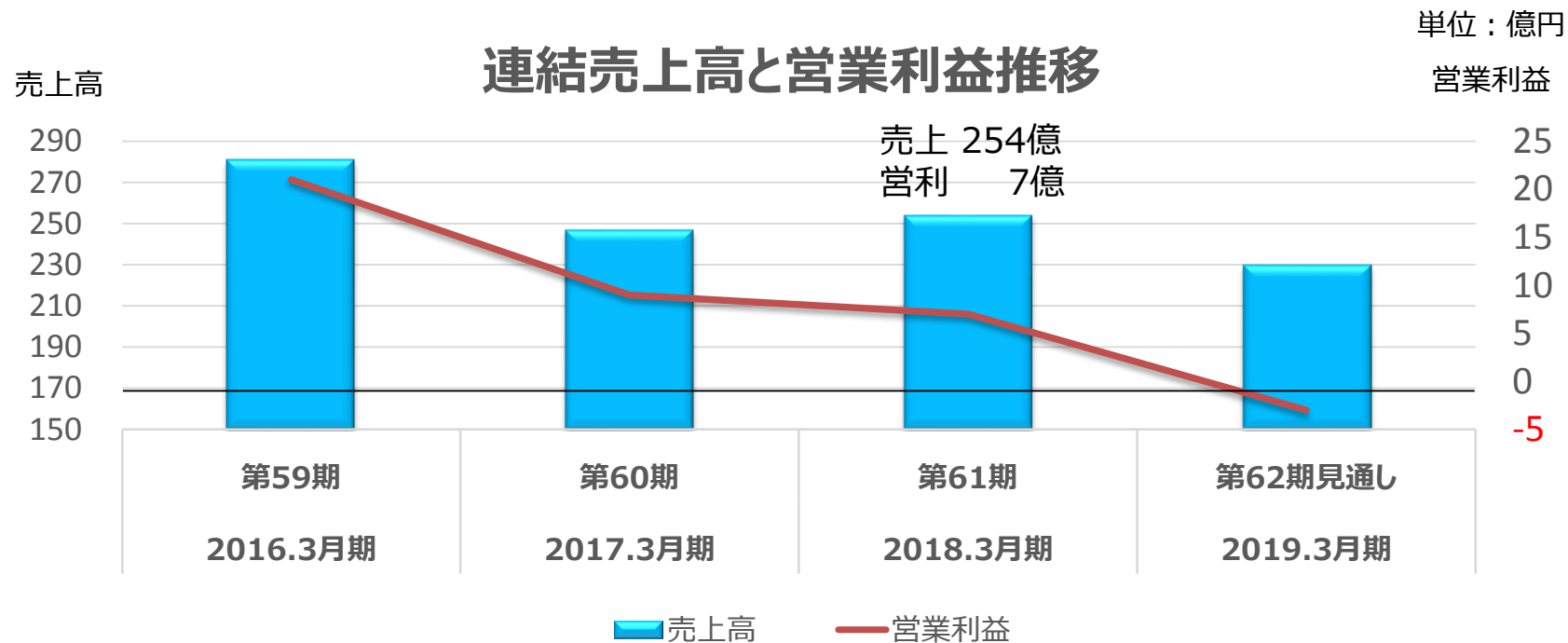
 川澄化学工業株式会社

2018年5月15日

# 目次

1. 現行の中期経営戦略
2. 中期経営計画
3. 長期目標（5年、7年）

# 現行の中期経営戦略（2017年3月期～2019年3月期）



## ■ 今後予定されている研究開発費

単位：億円

	2016.3月期 第59期	2017.3月期 第60期	2018.3月期 第61期	2019.3月期 第62期計画	2020.3月期 第63期計画	2021.3月期 第64期計画
研究開発費	7	10	11	16	15	18

研究開発費は今後も増加。



**現状の事業構造では、賄えなくなる。**

## 現行の中期経営戦略（2017年3月期～2019年3月期）

現行中期経営戦略の軸は、「事業構造転換」と「内部構造転換」

事業構造転換	内部構造転換
<p>研究開発力の強化</p> <p>既存事業のキャッシュフロー維持向上</p> <p>グローバル展開の加速</p>	<p>組織力・実行力の向上</p> <p>業務効率化</p> <p>モチベーション向上</p>



### 具体的な実行計画の策定が完了した

現在進行中の中期経営戦略から、より具体的な課題・施策を盛り込んだ新たな中期経営計画へ移行。抜本的に収益性を改善し企業価値の向上を図る。

# 中期経営計画

## (2019.3月期～2021.3月期)



# 中期経営計画（2019.3月期～2021.3月期）

---

## 3本柱と重点施策

**1** 体外循環事業の見直し

**2** 血管内分野の拡大と新分野への進出

**3** 生産性の向上

# 重点施策

## 1 体外循環事業の見直し

### ▶ 不採算事業からの撤退

- ・ 国内生産ダイライザーの生産・販売終了。
- ・ 血液浄化製品の自社国内販売終了。
- ・ その他不採算製品の生産・販売終了。

### ▶ 営業拠点の統廃合

- ・ 現在の8拠点（札幌、仙台、北関東、東京、名古屋、大阪、福岡、岡山）を3拠点（東京、大阪、福岡）に集約。
- ・ タイ販売子会社の清算。

# 重点施策

## 2 血管内分野の拡大と新分野への進出

### ➤ 新製品による新たな収益基盤の確立

- 血管内、消化器、癒着防止材ほかの売上高2018年3月期比 200%。
- 2021年3月期に新研究開発拠点設置。

### ➤ グローバル展開の加速

- 新製品海外展開のための体制強化。
- スtentグラフトの欧州での販売拡大、米国販売製品の販売拡大。

# 重点施策

## 新製品上市イメージ

中期経営計画  
(2019.3期～2021.3期)

次期中計  
(2022.3期～)

新開発拠点  
スタート



癒着防止材

SG後拡張デバイス

腹水濾過濃縮器

大腸ステント

胆管ステント

次世代SG

腹部SG



2019年3月期

2022年3月期

2025年3月期

# 重点施策

## 3 生産性の向上

### ➤ 業務の効率化

- 生産管理センター設置による、国内外の生産一元管理。
- 新研究開発拠点への本社機能の一部集約。
- RPA活用による生産性向上。

### ➤ 働き方改革

- ワークライフのバランスがとれる、柔軟な人事制度設計の検討。
- 果敢に挑戦出来る次期リーダーの育成と、生き生きと働ける人事・処遇制度の改革。

# 構造改革による影響

## 人員削減

今秋を目途に以下を対象とし290名程度の希望退職を募り、人員削減を実施する予定。

	2019.3月期	2020.3月期
<b>国内</b>	<b>110名</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 営業関連 40名</li> <li>・ 本社等 30名</li> <li>・ 生産関連 40名</li> </ul>	<b>20名</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生産関連 20名</li> </ul>
<b>海外</b> (タイ)	<b>160名</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生産子会社 160名</li> </ul>	-

※ 上記のほか、販売子会社の事業終了にともない20名の人員が減少する予定です。

## 中期経営計画（計数計画）

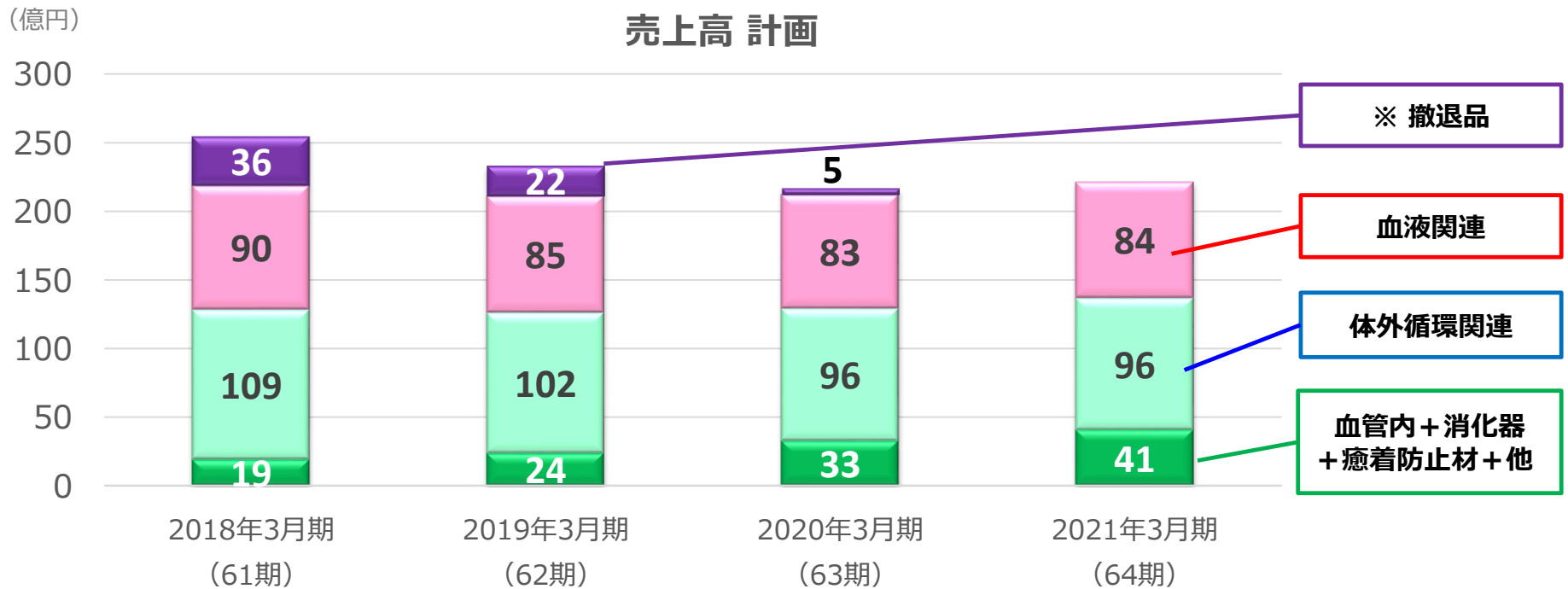
第63期上期までに構造改革を完了。構造改革により捻出した費用を研究開発費に充てるとともに、第63期業績からV字回復を果たす。

単位：億円

	2018.3月期 第61期	2019.3月期 第62期	2020.3月期 第63期	2021.3月期 第64期
売上高	254	230	215	220
売上原価	168	152	140	135
売上総利益	87	78	75	85
販管費 開発費以外	69	65	59	57
販管費 開発費	11	16	15	18
営業利益	7	▲3	1	10
営業外損益	1	1	1	1
経常利益	8	▲2	2	11
<b>構造改革費用</b>	<b>0</b>	<b>▲15</b>	<b>▲1</b>	<b>0</b>
税前当期純利益	7	▲17	1	11

※ 第62期以降の為替レートは、1ドル107円、1パーツ3.40円で計算しています。

# 中期経営計画（計数計画）



※撤退品（国内「イライザ」、海外血液回路、国内浄化自販（回路除く）、血圧モニタリングキット、カテーテル類）

○ 「血管内+消化器+癒着防止材+他」の売上高  
⇒ 3年後に2018年3月期比 200%の売上高を目指す。

血管内+消化器+癒着防止材+他	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
海外売上高	14億円	15億円	18億円	21億円



# スケジュール

## 構造改革スケジュール

	項目	2019.3月期				2020.3月期			
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4
構造改革	営業拠点の閉鎖		●						
	国内ダイアライザー生産終了				●				
	その他製品の生産終了					●			
	タイ販売子会社事業終了			●					
希望退職	営業・本社等人員		募集	●					
	国内生産		募集		●	●			
	タイ生産子会社		募集	●		●			

※ 希望退職の●印は、完了見込み時期です。

# 長期目標

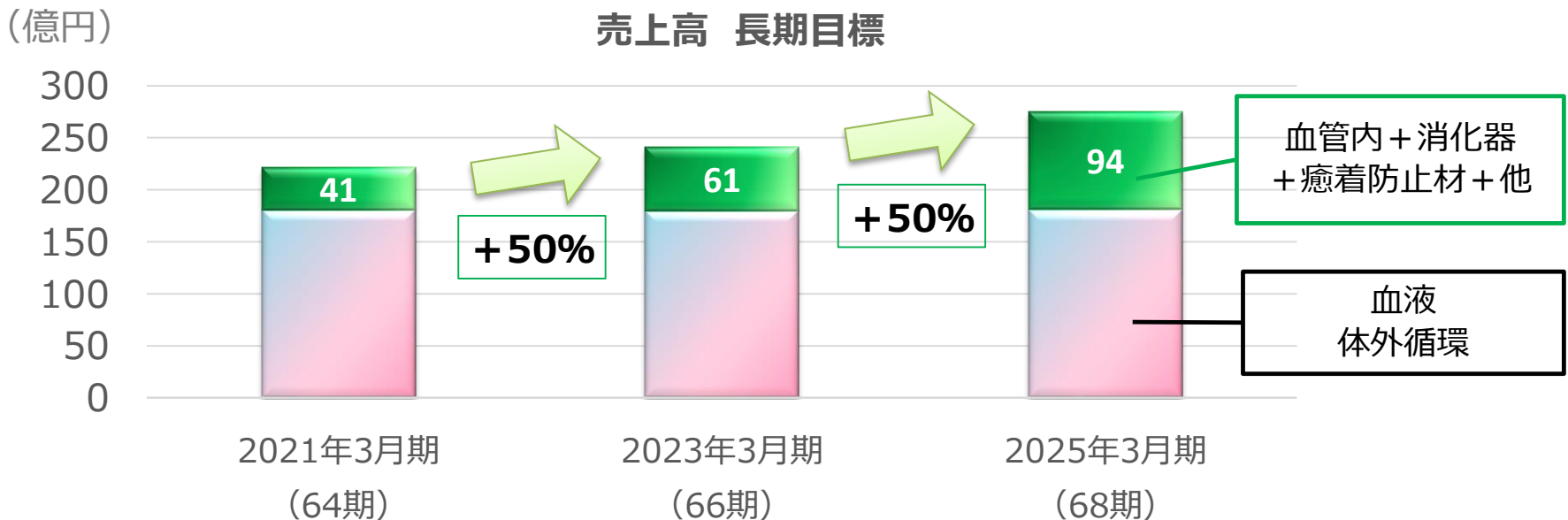
# 長期目標

**2023年3月期  
(5年後)**

- 売上高 240億円 営業利益 15億円
- 血管内、消化器、癒着防止材ほか  
売上高 2021年3月期比 +50%

**2025年3月期  
(7年後)**

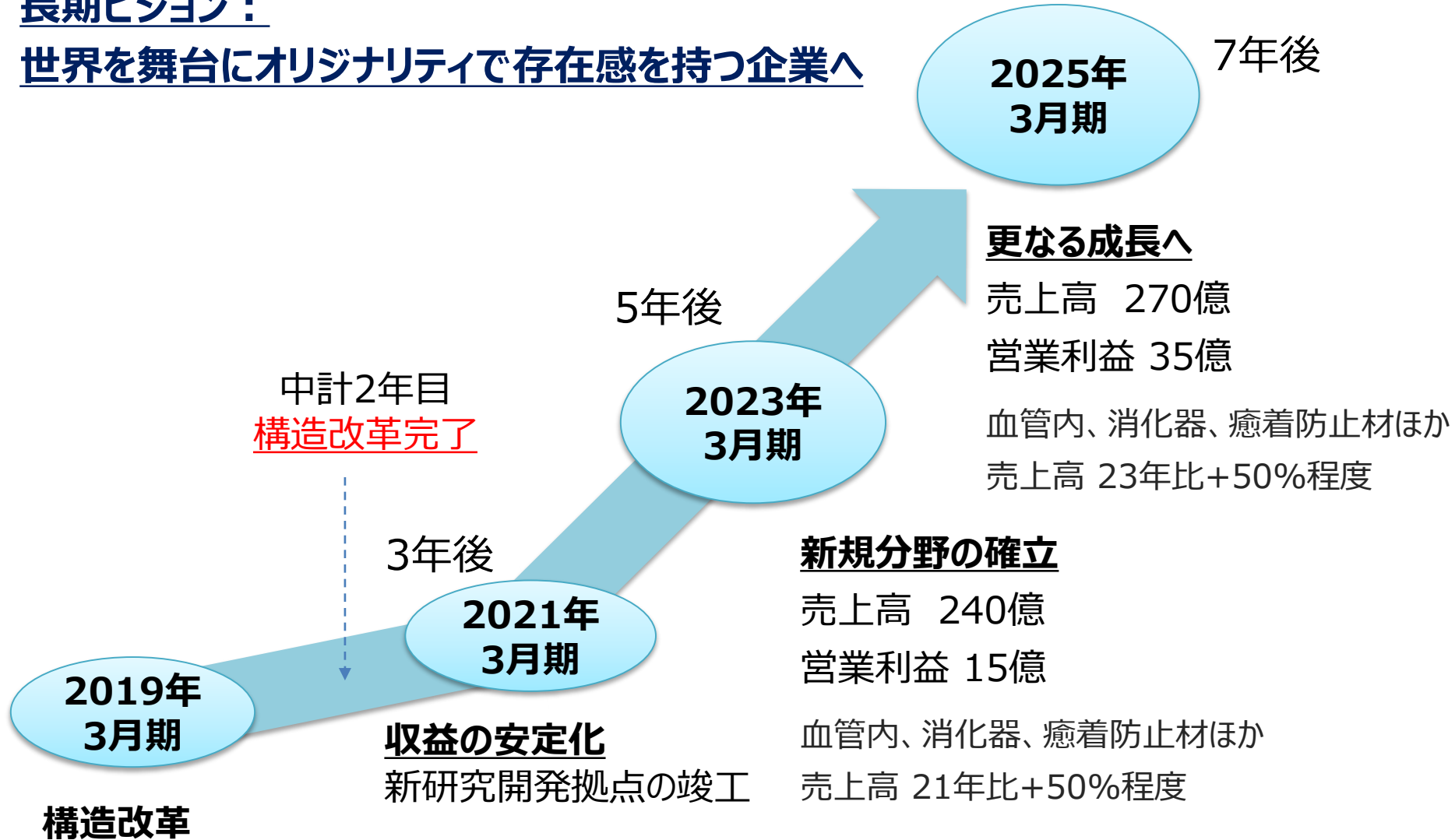
- 売上高 270億円 営業利益 35億円
- 血管内、消化器、癒着防止材ほか  
売上高 2023年3月期比 +50%



# 長期成長イメージ

## 長期ビジョン：

世界を舞台にオリジナリティで存在感を持つ企業へ



## ご注意

本資料中の将来にわたる記述は、現時点での推測・予測に基づくものであり、潜在的リスクや不確実性が含まれております。このため、将来の業績について保証するものではなく、実際の業績が、経営環境の変化等により予測と異なる結果になることがありますことをご承知おきください。

 川澄化学工業株式会社

本資料に関するお問合せ

川澄化学工業株式会社  
経営企画室

TEL : 03-5769-2698

Email : [webmaster1@kawasumi.jp](mailto:webmaster1@kawasumi.jp)